

情報・システム研究機構 経営協議会（令和5年度第4回）議事要旨

日 時： 令和6年3月14日（木）10：00～12：15

形 式： 国立情報学研究所会議室及びWeb会議

出席者：東信彦委員、安宅和人委員、川添雄彦委員、佐々木裕之委員、高橋真理子委員、竹村彰通委員、徳田英幸委員、永田恭介委員、森本典繁委員、大和裕幸委員、喜連川優委員（議長）、椿広計委員、中村卓司委員、小酒井克也委員、野木義史委員、黒橋禎夫委員、花岡文雄委員、仙波秀志委員、中川健朗委員、伏見信也委員

オブザーバー：村上雅人監事、門田隆太郎監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

○議事に先立ち、議長より本会の成立要件の確認があった。

○議長より、令和5年度第3回議事要旨の確認が行われた。

議 題：

【審議事項】

(1) 戦略企画本部・コンジリエント基盤室の設置について

仙波委員より資料1に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

(2) 国立極地研究所における運営企画本部の設置及び先端研究推進系、共同研究推進系の改組について

野木委員より資料2-1～2-2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

(3) 国立情報学研究所におけるトラスト・デジタルID基盤研究開発センター及び大規模言語モデル研究開発センターの設置について

黒橋委員より資料3-1～3-2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

(4) 統計数理研究所における運営企画本部基幹研究系支援室の設置について

椿委員より資料4-1～4-2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

(5) データサイエンス共同利用基盤施設の新体制への移行及び戦略的センターの設置について

仙波委員より資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

(6) 機構長補佐の設置等に伴う情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について
小酒井委員より資料6-1～6-4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

(7) 令和6年度予算配分方針について

小酒井委員より資料7-1～7-2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

○ ROIS の新たな挑戦シリーズ 第4弾 (国立情報学研究所)

黒橋国立情報学研究所長より資料に基づき、研究所における取組み及び新たな挑戦等について発表された。

(意見概要)

○研究環境は、原則開かれた状況が望ましいと考えるが、昨今の世界情勢から国際協力への影響等は生じているか。

→海外からの研究者受入の際の輸出管理等かなり慎重に行っている。またNIIにおける国際アドバイザーボードにおいても話題に挙がっているが、問題等は生じていない。安全保障については省庁ごとに乱立しているが、情報系の安全保障については、NIIだけでなく他機関とも協力し、データの輸出管理等を中心に進めているところ。

○LLMの成果は大学だけでなく産業界にもオープンにするか。

→学習したコーパスは基本的にはすべて公開する想定だが、産業界に展開する際の取扱いはもう一歩きちんと注意したい。新聞協会との調整については、国がルールを決められれば良いが、それも難しく、また我々だけでもデザインできない。色々なプレイヤーも交えながら議論する必要があるので、NICTさんとも一緒に検討できれば。

○海洋サンプルを取得してそこから100年後の指標の算出等を行っているが、公開するとデータ量が多くなり処理が難しいためLLMには非常に期待している。正しい動向を効率良く見出すために生成AIを活用したいと考えているので協力していければ。

→ROISにおいては、極地研など色々な分野の研究所があるので、それらと密に連携することで学術のエキスパートモデルを作っていくところで協力させていただきたい。

○NIIには特許がたくさんあると思われるが、NIIの知財部門についてはどうか。
→情報研ではデータを財として捉えており、相対的にパテントのボリュームは絞っている。引き続き財をどうみなすかという議論を深めていきたい。

○JSTのRISTEXでは「人と情報が共進化するプラットフォーム」のひな形を作成したものの、そこでプロジェクトが終わった。こうしたプラットフォームは社会に必要だと感じた。その際に分野横断的な専門家が重要と思われ、その一端をコンジリエント基盤室が担えると感じており期待している。

→非常に大きな課題と捉えており、今の社会でいうと、コンサルティング業界が行っているが、コストに対する成果は大きくないと認識している。政策研究大学院大学でもシンクタンク部門を設けるとのことで期待しているが、ITについてROISが推進するにしても当初から一般国民まで対象とすると範囲が広がりすぎることを懸念している。

○統合的に行う事業などはほとんど省庁やコンサルティング業界が手掛けている。マツキンゼーではどんなデータでもすぐに集まるが、コストがかかりすぎる。いずれにしても国家レベルの 이슈 と考える。

○駐日欧州連合代表部のPeter Fatelnig氏とも北極リンクのネットワークについて議論したが、海外とのリンクにおいて、SINETの国際回線は非常に重要であり引き続き維持してもらいたい。

→SINETを含めた基盤は競争するものではなく、日本全国で協力していこうというスタンス。LLMも同様で、EU諸国の中でLLMを作れる国というのはほとんどないが、日本全体で一体となって推進したい。また、大学共同利用機関法人の中で人文はあるが、経済学や法学といった社会科学分野はないのが実情。そのため、そういった分野についてもROISで推進していこうと考え、今回の組織改正に至っている。身の丈にあったところから一歩ずつ進めたいと考えており、是非ご協力をお願いしたい。

(次回の経営協議会の日程について)

・次回の経営協議会は、令和6年6月19日(水) 15:30から開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・前回議事要旨
- ・【資料 1】戦略企画本部・コンジリエント基盤室の設置にについて

- ・【資料 2－1】 国立極地研究所の運営企画本部の設置及び先端研究推進系，共同研究推進系の改組について
- ・【資料 2－2】 (新旧対照表) 情報・システム研究機構組織運営規則_極地研
- ・【資料 3－1】 国立情報学研究所におけるセンター設置について
- ・【資料 3－2】 (新旧対照表) 情報・システム研究機構組織運営規則_情報研
- ・【資料 4－1】 統計数理研究所における運営企画本部基幹研究系支援室の設置について
- ・【資料 4－2】 (新旧対照表) 情報・システム研究機構組織運営規則_統数研
- ・【資料 5】 データサイエンス共同利用基盤施設の新体制への移行及び戦略的センターの設置について
- ・【資料 6－1】 (概要) 組織運営規則の一部改正について
- ・【資料 6－2】 (新旧対照表) 情報・システム研究機構組織運営規則_機構長補佐
- ・【資料 6－3】 (新旧対照表) 情報・システム研究機構組織運営規則_男女共同参画推進室
- ・【資料 6－4】 (新旧対照表) 情報・システム研究機構組織運営規則_立川共通事務部
- ・【資料 7－1】 令和 6 年度収入・支出予算額
- ・【資料 7－2】 令和 6 年度予算配分方針 (案)